

令和3年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

| | | |
|--------|-------------------------|--|
| 団体等名 | 信州大学地域参画プロジェクト CHANGE | |
| 代表学生 | 所属大学名・学部・学年 | 信州大学 経法学部 3年 |
| | ふりがな 氏名 | うちだゆうか 内田佑香 |
| 教職員責任者 | 所属大学名・職名・ ふりがな 氏名 | 信州大学 教職支援センター 准教授 あらい えいじろう 荒井 英治郎 |

| | |
|------|--|
| 活動名 | 地域参画プロジェクト（公共交通の利便性向上および受動喫煙問題に対する取り組み） |
| 実施時期 | 令和3年5月から令和4年3月まで |
| 実施場所 | 長野県内（主に松本市中心） |
| 活動内容 | <p>今年度の主な活動として、（1）松本市における公共交通の調査（2）信州大学周辺における受動喫煙の現状調査（3）その他、地域参画に関わる活動を実践した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多数の規制がある中、何度も計画を変更して活動を実施した。</p> <p>（1）松本市における公共交通の調査 公共交通の利便性向上については、松本市における「公共交通（バス利用）の不便さ」に注目して松本市内の公共交通（シェアサイクル・路線バス）の調査と、他自治体の公共交通のあり方を比較することで客観的な分析を試みた。まず、令和3年12月11日（土）に、「歩いて楽しい街」を掲げる長野県小布施町を視察した。続いて、令和4年1月21日～2月11日の3週間【※】で、松本市内でバスに代わる移動手段として利用促進が検討されているシェアサイクリング（通称：ハローサイクリング・電動シェアサイクル）とタウンズニーカー（一部路線バスを含む）を実際に併用して利用し、双方に問題点と今後期待される点を大学生の視点から検討した。本調査では、5名計9回実施したが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、少しでも体調に不安がある者や体調不良者と接触があった者の参加を控えたことで、参加人数及び調査回数が計画から大幅に変更となった。 【※】課外活動が原則禁止とされた期間であったが、信州大学に申請・許可を得たうえで、感染対策を講じて実施した</p> <p>（2）信州大学周辺における受動喫煙の現状調査 昨年度実施した信州大学生へのアンケート調査から、信州大学は構内全面禁煙が徹底されているにもかかわらず「受動喫煙による健康へ不安」を懸念する声が多く見られた。この現状に注目して、喫煙に対して生産者・販売者・喫煙者という3方面の視点から、主に聞き取りによる喫煙に対する理解を深め、実際に信州大学周辺の現状を独自の調査によって明らかにした。具体的な活動については以下の通りである。 令和3年5月に信州大学の総合健康安全センターと意見交換の機会を設け、信州大学における喫煙状況と対策に関する聞き取りを実施した。令和3年4月に信州大学の周辺の状況把握のため、東門前の女鳥羽川の河川敷や西門前のコンビニ（デイリーヤマザキ）を観察したところ、喫煙者が断続的に訪れていることが判明した。さらに、近隣には教育機関が多数存在するため、近隣を歩く人に受動喫煙の影響を与えていることが懸念された。そこで、信州大学周辺で喫煙者が多いコンビニ前に設置された灰皿付近における時間帯ごとの喫煙者の属性とその動向を明らかにするため、11月22日の9：00～18：30の時間帯に灰皿の利用者のモニタリング調査を実施した。調査方法としては、コンビニの道向かいの信大西門のバス停にて、コンビニ前の喫煙者数、各喫煙者の喫煙開始時刻と終了時間の記録をした。さらに、無作為にコンビニで喫煙する人に匿名で聞き取り調査を実施した。 その他、生産者視点の聞き取り調査を5月から数回にわたり、学内問わず県外の喫煙の実態の把握のために、たばこの生産が盛んである岩手県のなかでも葛巻市に焦点を絞り、現地出身者と意見交換した。</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>(3) その他地域参画に関わる活動</p> <p>大学生が地域参画に興味を持つきっかけづくりとして、松本市が令和3年11月22日に開催した多事争論会「次世代につなぐアルプス公園」終了後に自主的な座談会を実施した。会場は争論会と同会場で、「休日の放課後」と題して、実際に参加した大学生と一緒に争論の内容や会自体の印象等を本音で語り合う場とした。当日はその様子をYouTubeにてライブ配信した。令和3年12月中旬にはテレビ松本主催「2022年松本市を語る～臥雲義尚市長若者と語る」に出演し、松本市長と対談した。その他、松本市アルプス公園自然活用検討会議の委員に選出され、アルプス公園の北側拡張部の活用に関する検討に関わった。</p> |
| 活動の成果と今後の課題 | <p>本年度実施した各種活動・調査から、以下のような成果が得られた。</p> <p>(1) 松本市における公共交通の調査</p> <p>第一に、小布施町の中心市街地の視察によって松本市中心市街地との違いが明らかになった。松本市との大きな違いは、冬季中は路線バスが走行しておらず、観光客は歩いて各場所に移動することとなることである。ここで、徒歩でも楽しめる工夫として、いたるところに小布施町の歴史を紙芝居方式にした看板や道案内が設置されていた(p.4の写真参照)。街の規模は松本市の中心市街地と同様の広さであるが、歩いて楽しめる工夫を凝らすことで、公共交通に頼らないまちづくりを実現していることが考察された。</p> <p>第二に、路線バスの調査では、松本市中心市街地を走行するタウンズニーカー・路線バスと長野市中心市街地を走行する長野駅—善光寺大門、長野ターミナル—県庁前の2路線を比較した。両地域の路線バスの相違点としては、道路の車線数・幅の違いとICカードの利用の可否である。松本市については、城下町の街並みから道幅が狭いため、停留所でバスが一時停止することが渋滞を引き起こす原因となっている。さらに、バスでは料金支払いが現金に限定され、料金精算時に両替が必要であることで停止時間が延長し、後続車の渋滞を引き起こす一因となっている。一方で、長野市の路線ではICカードが導入され、2車線以上の大通りを走行していることから、バスの一時停止を原因とする渋滞は確認されなかった。なお、支払いにはICカードと現金どちらも使用可能だが、調査では年代偏りなく、ICカードの利用者が確認された。以上から、道路の車線数・幅が広い場所では停留所におけるバスの一時停止が交通渋滞の原因になりやすく、車内へのICカードの導入によって、現金の支払いよりもバス降車時の滞在時間が短縮されることが分析された。</p> <p>第三に、松本市内で導入が促進されているハローサイクリングの、路線バスからの代替の可能性を調査した。調査によって、今後期待できる点と改善点が明らかになった。まず、今後期待できる点としては、「電動自転車であるため、坂道が多い松本で移動が容易である」、「市街地の交通渋滞を気にしない移動が可能である」、「気軽に停まれて一時停止できるのがいい」、「バスが走っておらず、徒歩だと不便な場所への移動が容易である」点が挙げられた。一方で改善点として「利用できない車両が大半を占め、利用不可であった」、「使用のために駅周辺に設置された特定のポートまで移動するのが面倒である」、「大学の近くにポートがないので気軽に乗れない」、「初期利用の際にアプリをダウンロードして利用登録する必要があるため、利用者層が限定される懸念がある」という意見が挙げられた。また、車体に関する指摘として、「ブレーキが利きすぎて停止時に身が放り出されそうになった」、「サドルの調整が不具合で調整ができなかった」、「タイヤの側面に搭載されたプレートが少しの段差でガタガタ大きい音が出て気になり、近くの人の迷惑になっていないか不安になった」、「ハンドル横にあるキャンペーン用の紙が運転中に妨げになる」といった意見が挙げられた。なお、今回の調査では「ハローカード&タウンズニーカー1日乗車券セット券」を使用した調査であったが、お得なセット券である反面、販売方法に関してもいくつか問題点が明らかになった。第一にセット券が販売されていることを調査の参加全員が知らず、調べても十分な情報が見つからなかったため、セット券販売の存在周知自体が不十分な実情が把握された。さらに、販売場所がアルピコプラザに限定されており、窓口でのセット券販売の情報が大きく開示されていないことから、購入までの障壁の高さが指摘された。</p> <p>(2) 信州大学周辺における受動喫煙の現状調査</p> <p>令和3年5月には信州大学の総合健康安全センターと複数回にわたる意見交換により、大学としては喫煙者の増加を抑制すべく学生への働きかけを把握した。喫煙問題に対する働きかけは一過性のものにとどまらず、長期的に着実に取り組んでいく重要性を再認識した。令和3年6月に実施した信州大学西門前のコンビニで実施した調査では、信州大学の関係者が大半であった。実際に喫煙をしていた信州大学生への聞き取りから、大学構内に喫煙所が設置されていないことで、コンビニ前で喫煙している実情が把握された。さらに、コンビニ前で発生する煙</p> |

草の煙が、道向かいの信州大学西門のバス停利用者に問題意識をもたせているのではないかと
いう仮説のもとで、バス停利用者に聞き取り調査を実施した。当初、たばこの煙や喫煙の現状
に問題意識を持つ人が多数いることを予測していたが、聞き取りでは「コンビニからは距離が
あるから気にならない」との回答が多数みられた。さらにこの聞き取りでは、コンビニ前の灰
皿が公共の喫煙所と相違ないものであるという認識もみられ、喫煙場所についても誤った認識
の人が一定数いることが判明した。

続いて、上記の調査をふまえて丸1日、コンビニ前での喫煙者の灰皿の利用者と使用時間を
調査した。ここで、大学構内から出てきた人が灰皿に直行する姿が多数確認されたことから、
利用者の大半が大学関係者である可能性が高いことが考察された。

【令和3年11月22日調査結果】

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1cbZIKJs03ekftaj9-yX_ny-G_60vZcQY/edit#gid=1749661565

(3) その他地域参画に関わる活動

「休日の放課後」では実際の配信の閲覧者の世代は多岐にわたり、大学生が行政の提示する
争論会に関心があることや、率直な感想に対して広い世代が関心を寄せたことがうかがえ
る。実際に当日参加した大学生からは「なかなか形式的な討論会に興味を寄せることは難し
いけれど、一緒に本音で語れる同世代がいると心強いし、自然と興味が湧いてくる」という
感想や、YouTube 配信を視聴した30代の市民の方からは「またこういう場で議論をして、発
信してくださることを期待しています。」というコメントの送信があった。大学生が地域に参
画するきっかけづくりという観点からは、大学生が少しでも関心を持ったもらうため仕掛
け、さらには幅広い世代との交流という点から、オンライン上での新しい交流の形を模索で
きたと考える。【YouTube URL】 <https://www.youtube.com/watch?v=Wiri7tYwtfk>

また、市長との対談では、これまでの団体としての活動から見えてきた大学生の視点から、
これからの松本市について意見交換の場が実現した。

このような活動から、本団体の目的である「大学生に対して地域参画を考え、きっかけづ
り実践していく場をつくる」ことが達成されたと考える。

今年度は大学生として身近である社会問題である「公共交通」「受動喫煙」の現状把握のため
の調査に重点を置き、その実態を明らかにしてきたことが今年度の大きな成果であると考え
る。同時に、ここで明らかになった諸課題に関しては、短期で容易に解決できるものではなく、
長期にわたって継続的に働きかけていくことが必要であることが示唆された。昨年実施のアン
ケート調査、今年度の実地調査を通じてより具体的に明らかになった「公共交通」「受動喫煙」
の実態を生かして調査を実施できたところは昨年度の課題を反映できた点であるといえる。

一方で、今年度の活動に共通する課題としては、継続した活動と活動自体の周知であると考
える。今年度は現状把握と調査にとどまったが、今後は明らかになった現状を踏まえて、各問
題に直接的な働きかけに至るまで活動を展開し、継続することが重要だと思案する。いずれも
一部の関心のある人々だけでは解決できない問題である。これまでの活動を周知するととも
に、賛同者を広げることで少しずつ着実に問題の解決に取り組んでいきたい。なお、今回の調
査で明らかになった事柄については、有識者の見解を参考にしてまとめ資料を作成し、行政機
関への提出や本団体のホームページ・SNS への掲載を予定している。

【ホームページ】 <https://shinshuchange.wixsite.com/change>

【各種 SNS】

Twitter : https://twitter.com/CHANGE_shinshu

Facebook : <https://www.facebook.com/CHANGEshinshu/>

Instagram : https://www.instagram.com/change_shinshu/

【小布施町視察】



【信州大学周辺における喫煙状況の調査】



【ハローサイクリング&路線バス調査】



【「休日の放課後」配信の様子とチラシ（左2枚），市長との対談（右1枚）】



【「休日の放課後」配信内容のまとめ】

<https://drive.google.com/file/d/199ToLBrL9itLpnnGfXfMSb7Qj4b1jUB4/view?usp=sharing>

なお、本団体の取り組みは、NAGANO SDGs PROJECT 実行委員会発行の「長野みんないろんなSDGs2021-2022」の冊子に事例の一つとして取り上げられた。

NAGANO SDGs PROJECT 実行委員会「長野みんないろんなSDGs 活動紹介BOOK」(2022年2月20日最終閲覧, https://www.naganosdgs.jp/cms/wp-content/themes/sdgs_2021/document/21-22nsp_book.pdf)

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。活動内容だけでなく、活動団体のPRを行うことができる動画を添付することも可能です。

※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。